

令和3年度第1回
隠岐の島町総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和4年1月26日(水) 9時00分~10時02分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者 町長 池田 高世偉
教育委員会 教育長 野津 浩一
教育委員会 委員 野津 幸恵
教育委員会 委員 山下 豊範
教育委員会 委員 常角 敏
教育委員会 委員 谷田 一子

【事務局】

総務学校教育課長 吉田 隆、社会教育課長 野津千秋、
中央公民館長 金坂賢一、総務学校教育課長補佐 中村恒一

4. 協議事項 小中学校規模適正化検討委員会答申を受けた今後の対応について

5. 意見交換 町内中学校の部活動の在り方について

6. 傍聴人數 1名

7. 会議の経過 別紙のとおり

8. 会議録作成者 総務学校教育課 総務係 中村恒一

9. 会議録署名者 署名日 令和4年2月24日

池田高世偉

町長
常角敏
教育委員

別 紙（議題の経過）

○開 会

事務局職員が出席者の確認をした後、町長は開会を宣言した。

(池田町長) 昨日、島根県においてもまん延防止等重点措置の地域に指定がなされた。

実際には前もって土曜日に県から方向が決定している中で打診があった。県下全域とのことであったので、我が町としての意見を申し上げた。

このような中にあって、しげき祭ご案内のチラシ、ウルトラマラソンのご案内の手紙等を丁度この時期に出している。色々な意見はいただいているが、町として、また、私の思いでもあるが、今年のイベントは、通常どおりやつていくことを方針として決めたところである。最終的には重大な事態の中で決断しなければならない場面もあるが、通常に戻したいという中で、こういったイベントを企画して、ご案内するといった趣旨について、皆様にご理解をお願いしたい。

そして、2点目に教育行政についての私の考え方であるが、コロナ禍で色々な新たな事案が発生する中で、校長先生や保護者の方とお話し、個人的な思いであるが、その都度、時期によって教育行政も変わると、校長先生方が守りから攻めの方に少しずつ考え方があらわってきた。新型コロナウイルスのこともあり深刻な状況で言い方は悪いかも知れないが、雰囲気として明るい教育行政に進んできているのではないかと見ている。新年度についてもそういった予算編成をしていきたい。

今日の意見交換にある部活動問題もそうであるが、時代が変わってきている中で、部活動をどうしていけばよいのか、皆様とこういった場で情報を共有し、この時代にあった対応策を議論いただきたい。

本日、議題は小中学校規模適正化であるがこの教育総合会議は、結論を出す会議とは思っていない。皆様から意見をいただき、それを材料とさせてもらい、最終的には町として判断させていただくという思いで出席している。

○会議録署名者の氏名

町長は、常角委員を議事録署名者に指名した。

○協議事項

(1) 小中学校規模適正化検討委員会答申を受けた今後の対応について

事務局より前回教育委員会会議で配付した答申書について、検討委員会で議論された5項目を中心に説明をおこなった。

(吉田課長) 特に答申書P4の「北小学校の他校との統合」については、保護者から心配のメールもいただいている。答申の内容にも校区の保護者との意見交換について記載があるが、教育委員会としても保健福祉課と連携し、2月以降のところで保護者等と意見交換をしたいと考えている。

教職員の減数となる基準については、資料1のとおりとなっており、北小学校では、新年度、児童数が20名以下となることから、事務職員が配置されないこととなる。

(池田町長) 事務職員が配置されない場合、学校への対応はどうなるか。

(吉田課長) 教育事務所とも協議し、事務リーダーを中心はどう連携していくのか検

討している。

(野津教育長) 県内でもそういった学校がある。他ではグループリーダーを中心にカバーしていくといったやり方をしている学校が多い。本町では2つの事務グループがあるが北小学校は距離のこともあり、どううまく連携していくか検討している。

(野津委員) 参考までに、私が那久小学校校長の時には前任の校長の考え方で、教頭よりも担任となる教諭を残し、事務職員と教頭がいなくなっていた。事務の関係については、隣の都万小学校から週1回来てもらい、特に旅費関係をお願いした。それ以外の事務は校長が対応していた。

子どもにとっては担任の先生がいることの方が大切なことなので、この考え方でよかったですと思っている。

(常角委員) 私が布施小中学校の時は、併設校だったので中学校付の事務職員1名の配置があり、小学校のこともやっていた。教頭がある程度カバーしていた。

机上の仕事なのでそんなに苦しんでいた記憶はない。

(池田町長) 事務職員が不在となると他の事務職員だけでなく、先生方にもそういった影響があり大変なことである。

(常角委員) 答申書P6の「5. 少人数となる事が見込まれる地域の小中一貫教育の推進」の中で、「将来的な目標とし、当面は、現在行っている小中学校の連携をより一層充実させていただきたい。」とあるが、将来的な目標とし、というところが少し曖昧である。

(吉田課長) 小中連携教育の中に小中一貫教育があるが、会議の中でも「小中一貫教育とは何か」というところから議論が進められた。調べてみるとまず、義務教育学校があるがこれは色々な所でされている。また、小中一貫型小中学校があり、その中に併設型小中学校(同一設置者)、連携型小中学校(異なる設置者)と大きく3つに分かれている。

西ノ島小中学校、知夫小中学校、また、過去には布施小中学校もあったが、そのことも踏まえながら本町の五箇、都万において何が望ましいのかを考えた時に、小中一貫教育の長所、短所を検討したところである。

現計画において、都万小中学校については、小中学校が隣接しているので校舎を一つにすることが掲げられており、同じく、五箇小中学校でも校舎を改造し、同じ校舎の中で教育をしてはどうかとなっている。

今望まれるのは、お金をかけて校舎を併設するよりも、現在、それぞれが行っている小中連携により、色々な行事を一緒にしたり、情報交換を進めているので、そこを伸ばした方がよいのではないかという結論に至っている。将来的には人数も変わり、どうなるかわからないが、現状では答申にあるような考えとなっている。

(常角委員) 都万地区では保小中が定期的に会議を行っていた。その会議がなくなったと聞いているがその辺の情報は何かあるか。

(野津教育長) 会がなくなったとは聞いていない。校長が変わったことなどから考え方少し変わったとの様子は聞いている。会自体がなくなったとの声が届いているのであれば確認したい。

(常角委員) 私は都万中学校にいたので、保小中の会議が定期的にあって、運動会など合同の行事もあり非常にスムーズにいっていた。

(吉田課長) 地区も一緒になった運動会ができなかったことからそういった情報が入ったのではと思う。

(金坂館長) 会議自体は今もあり、今年度もやっている。公民館も参加している。

(谷田委員) 小中一貫校は将来的に考えていく必要はある。そこには色々な可能性があるので、メリット・デメリットを突き合わせながら前向きに検討していく必要があると感じた。

各地区で色々な連携をされていると思う。もうなくなったが中村小でも保小中が密に連携をしていた。児童の情報交換、授業交流、地域行事など、子どもたちの情報が把握できていた。ただ、その分、すごく時間が必要で先生方も負担はあり大変だったが、あった方がよかった。

(常角委員) 建設費はかかるかもしれないが、都万地区、五箇地区については、物理的な距離から小中一貫の方がよいと思っている。

まちづくりから考えても地域との連携や、小学生が上の子を見て、ああいう風になりたいと目標ができる。地域の人とふれあって、地域を好きになる。それが将来的に、子どもたちがこの町で生活していきたいとの意欲につながる。

先日、布施支所長と話したが、「布施で卒業した子どもたちがほとんど帰って来ている。島内で一番帰ってきていている。」ということだった。これは布施小中学校の教育の成果ではないかと思っている。いくら建設費がかかるにせよ将来的なビジョンとして必要ではないか。五箇地区も都万地区も人口が減ってきてていることも考えると。

(山下委員) 小中一貫になると教員数はどうなるのか。

(吉田課長) 義務教育学校でいうと9年間で子どもを育てようということなので校長1名でやろうということ。例えば、西ノ島小中学校も義務教育学校ではないが、校長は1名、知夫もそうである。色々な形態があり、校長が1名になることによって、教員を1名増やすことができるというメリットもある。施設で言えば、施設一体型や施設隣接型、分離型などある。それぞれどういうメリット、デメリットがあるのかは分からぬ。

(池田町長) 私も将来的には望ましい形になっていけばよいと考えている。あとからの話にも繋がるが、現状を見ると、五箇から西郷へなど、校区外が増えており、そういう状況の中で、本質的にはどうあるべきか、五箇、都万の小中一貫をどうするのかを議論していかなければならない。

(常角委員) 校区外の問題はあるが、それは部活の問題であるとか、出身校の問題であり、それを差し引いても小中一貫教育を進めていくということは、重要なではないかと思っている。児童生徒から見ればデメリットはほとんどない。

(池田町長) 時間的なところがあり申し訳ないが、小中一貫教育について、まずは教育委員会において議論いただきたい。もう一つ、北小学校の問題について近い話となっている。皆さんはどう考えているのか。

(常角委員) 「少人数校の存続もやむを得ない」と書いてあるが、保護者・児童の意見は重視すべきである。ただ、少人数だからといって、教育の停滞はないと思っている。少人数だからといって学力、知・徳・体が伸びないということではない。北小学校については、正直、私もどうするべきか悩むところである。

(谷田委員) 小規模、大規模それぞれのよさ、課題があり、地域に学校をという思いもとてもよく分かる。親御さんから先々は南中学校にいくのだから早めにという思いも聞いたことがある。子どもを集めで育てたい、同級生が一人もいなくなったらどうしようという思いもよく分かる。そこで暮らす方々の思いにどう寄り添うか、どう意見として吸い上げるのかに尽きるのではないか。息子が西郷小学校の3年生の時に統合があったが、小さい学校の

子どもたちもあつという間に馴染んでいた。

(野津委員) 私も同じ思いである。適正化計画策定の時に統合後、子どもたちが統合したことなどをどう考えているかのアンケートを取っていたが、統合してよかったですという子が多くいた。中には小規模校でも大規模校でもはみ出る子どももいるが、子どもはすごく順応性があり、周りに馴染んでいく。

また、地域が寂しくなるという地域の人たちの意見があるが、それはそうならないようにすればよいと思っている。寂しくしないようにすることが地域の仕事であり、地域の中で隠岐びと、隠岐を好きな子を育て、保護者と地域と学校も連携し、そういう機運を高めれば地域も寂しくならないと思う。

(山下委員) 学校が考える統合と地域が考える統合は、少し違うかと思う。私は、中村が大好きで、高校で初めて中村の生徒と一緒にになったが、この狭い島の中でもいい意味でそれぞれ地区の特性があった。育った環境でこういった地域特性があるのだと、それも勉強だと思っている。

地域で頑張ることももちろん大事であるが、その地域で学ぶ、生活する、近くに保育所がある、そういう環境が大事かと思っている。

(池田町長) 最終的には地域の方々の意見を踏まえてということもある。自分自身も常角委員の言われた複式を久見小学校で経験している。その中で、7名から135名の学校に行かせていただいたが順応性もあったと思う。

ここまで、5点の内、主に2点を話したが、後の3点についても色々と課題はあるが、こちらは引き続き教育委員会の方で議論していただきたい。

○意見交換

(1) 町内中学校の部活動の在り方について

(野津教育長) 今回は、時間もないため情報提供という形になるかもしれないが、私の教育長着任依頼、中学校の中では部活動の問題が大きな課題であると考えていた。

1つは、子どもが減っているので、成り立たない学校が増えてきている。特に団体スポーツをできない子どもが出てきている。経験できる選択肢を考えてあげないといけないのではないか。もう1つが、教員の働き方改革の柱の一つに、文科省が部活動を地域へ移行ということを言っている。令和4年度については、土、日は、学校が手を放して地域の方が見れるような検討をするよう予算もとっているが具体的には決めていない。

実際、競技によっては野球、柔道、卓球など地域の指導者がおられる。他の競技でも広く指導者を養成し、環境を整えていくことが課題としてある。学校ごとの部活動の状況は、資料としてお渡ししているが、南中学校など野球は、部活動としては大会にでられないが、クラブチームとして大会に参加できる環境はある。そういう状況もあり、部活動に関して校区外で毎年5、6名の移動はでている。

地域のことを守りながらスポーツもさせてあげたい。しかし、色々な問題点があり、校長先生方と話をしても、行き詰ってしまう。結論はでないが、皆さんからも意見をお伺いしたい。

(池田町長) 色々な問題を抱えており、大変難しい問題である。

(常角委員) 野球など人数が足りないところは他校と一緒にになって参加し、練習はそれぞれでやっていた。中体連の規定にもあり、最終的に統合チームとして参加できる。西郷中学校にバスケットボールと柔道で校区外から生徒が来

るが、柔道は土壌があり、卓球のようにクラブチームにしてしまえばよいと思う。バスケットボールはここにしかないで難しい。

(谷田委員) 県教育委員会として部活動の方針は、どうなっているのか。校区外に関連して、島外への進学を考えている生徒はないのか。

(野津教育長) 高校はあるが、小学校から中学校へは稀である。県の方針は特になく、国の方針に準じている。今この問題で、県内に研究指定校が2校あり、学校が関わらない中で、地域で指導していく体制をとっている。町では美郷町だが、2校しかないので割とやり易いのではないか。

本町のよう4校でクラブを作るとなると移動のこともあります、平日の練習はできない。柔道もほぼクラブチームのようになっているが、練習ができないため西郷中学校で部活動としてやっている。顧問はおいでいるが、指導はしていない。

(山下委員) 西郷南中学校ではサッカークラブがあり、南中学校2名、西郷中学校3名の合併で、更に安来のクラブに参加している。生徒は歩いて西郷中学校まで練習を行っている。布施の生徒もあり、終わったら保護者が連れて帰るなどハードな生活をしている。クラブのことを知らない保護者が沢山おり、説明も必要かと思う。

私の意見としては、なるべくクラブ化していく方がよいと思っている。放課後の移動さえクリアできれば、校区外就学がなくなり、子どもが地区に残っていくことに繋がるのではないか。

(野津委員) バスケットボールが問題との話がでていたが、小学校ではクラブチームでやっているのすぐに中学でクラブチーム化はできるのではないかと思う。やはり問題は、移動で、西郷周辺の子どもたちは参加しやすいが、周辺部の子どもたちは送り迎えが大変で、勧めない保護者もいるようだ。

また、遠征の船賃の補助など町もしているが、行き来する経費はそれぞれの家庭で事情が違うし、そのところも考慮してあげる必要があるのではないか。

(野津教育長) 学校教育の中での費用負担を町がしている。社会教育に移行していくとすればそのお金もある程度考えていかないといけない。

(池田町長) 最初に教育長が言ったように、簡単に片付く問題ではない。もう少し工夫していただき、対応策をきちんと考えて進めていかなければならない。

○閉会

町長は閉会を宣言した。